



United church of Christ in japan
Kure Heian Church

シャローム

いつも、あらゆることについて、わたしたちの主イエス・キリストの名により、父である神に感謝しなさい。(エフェソ5:20)

この手紙が書かれた頃、ローマ帝国内では、キリスト教会への迫害が始まっていた。それまでは普通に付き合い合っていた人たちが突然態度を変えてくることもあったでしょう。キリスト者であるということで結婚生活に危機が訪れたり、仕事に支障を来したり、町を追われるようにして旅に出る者があったようです。

町々村々を巡っての伝道者の旅も楽なものではありませんでした。以前にはなかったことですが、イエス・キリストの救いの恵みを伝えたために投獄される者が出ていたのです。信仰の指導者で殉教をした者もあったようです。

著者は天の故郷へと旅する神の民＝教会に、御言葉の約束を思い出させるのです。「神御自身、『わたしは、決してあなたから離れず、決してあなたを置き去りにはしない』と言われました。」(5節)そして大祭司イエス・キリストを指し示します。「イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることはない方です。」(8節)世は移ろい、人も変わる。しかし決して変

わらない方がおられるのだと。

昔イスラエルの民が荒野を旅し、ヨルダン川を渡って約束の地へと入って行こうとした時、指導者モーセは言いました。「わたしはヨルダン川を渡ることはできない。しかし神は共におられる。神は見放すことも、見捨てられることもない。」神の人と呼ばれた偉大な

指導者モーセと言えども永遠ではありません。世は移ろい、人は変わるので。しかし神は決してその民を見捨て

られないのです。わたしたちのために十字架で贖いの死を遂げてくださった大祭司イエス・キリストによってそのことがはっきりと示されているのです。

ですから、著者が「旅人をもてなすことを忘れてはいけません」(1節)、「牢に捕らわれている人たちを思いやり」(3節)、「結婚はすべてに人に尊ばれるべきであり」(4節)、「金銭に執着しない生活をし」(5節)と語りかけるとき、それはわたしたちを通して、イエス・キリストが決して変わらないお方であることを証ししようと呼びかけているのです。アーメン



主日礼拝説教より

「神は決して見捨てない」
ヘブライ人への手紙第13章1～16節
牧師 小林克哉